2014 年度点検・評価シート

Ⅰ　評価項目・担当部局

対象部局	人文科学研究所
評価基準 1	理念・目的
点検・評価項目(1)	1-1　大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。
評価の視点	理念・目的の明確化
	設置の主旨や歴史からみた理念・目的の適切性
	個性化・独自性、国際化への対応
点検・評価項目(2)	1-2　大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。
評価の視点	構成員に対する周知方法と有効性
	社会への公表方法
点検・評価項目(3)	1-3　大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。
評価の視点	責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。

Ⅱ　点検・評価

【点検・評価項目ごとの現状説明】

1-1	本研究所の設置目的は、平成２年制定の「大東文化大学人文科学研究所規程」に、「人文科学に関する学術の研究およびこれに関する諸事業を行い、研究成果を社会への還元を目的とする。」と明記されている。この理念・目的のもとに、創設以来、学術研究、関連事業、成果の社会への還元が、いずれも順調に行われて今日にいたっている。とはいえ、学部附設研究所における個性化、独自性、国際化とはなにかについては、なお理念が不明確であり、本学文学部の将来計画の必要に応じて理念形成をしていく必要がある。
1-2	「大東文化大学人文科学研究所規程」に明記される本研究所の理念・目的をはじめ、諸活動についても、ホームページに常時掲載している。理念・目的に基づく諸活動については、毎年度「人文科学研究所所報」の公刊を通じて大学構成員はもとより社会にも当該年度の諸活動を公開している。また、諸活動や研究員の追加・変更等は、学部長・学科長・所長等で構成する運営委員会で審議し、さらに教授会で報告乃至承認を得るなど、大学構成員への周知も十全に行える体制が整備されている。また、研究班の研究報告会や講演会・座談会等の活動については、他学部や他学部附設研究所等にも周知しているほか、大学院生への周知も行っている。ただし、理念・目的、並びにこれら諸活動の周知方法の有効性については、検証していない。
1-3	理念・目的を定期的に検証する体制が未整備であることから、検証していない。

【効果が上がっている事項】

1-1	例年、研究期間２年の研究班数は、「大東文化大学人文科学研究所規程」の「研究員若干名」を上回り、「人文科学研究所業務運営に関する確認・合意事項」に「10 班以内」の目安を掲げて抑制しながらも、創設時の 13 班前後で推移し、現在は研究代表者の学科間の偏りもない。年度末における「人文科学研究所所報」、研究所紀要「人文科学」、研究班の研究報告書の刊行も滞りなく、これら公刊の研究所諸活動報告や学術研究成果によっても、本研究所の理念・目的と諸活動の適性を誰もが検証できるようになっている。
1-2	「人文科学研究所所報」を毎年刊行し、ホームページも活用して、諸活動を公開し、周知を図っている。
1-3	

【改善すべき事項】

1-1	学部附設研究所における個性化、独自性、国際化については、本学文学部の将来計画の必要に応じて、研究部会等で協議しつつ理念形成に努める。
1-2	本研究所のホームページへのアクセスが、大学ホームページ中の「教育・研究」ボタンから入らなければならない。この「教育・研究」は、大学における全活動を網羅する広範囲な概念であるため分かりづらく、ホームページを閲覧しやすいように、「研究所」ボタンを新設するなどの改善が望まれる。しかし、本研究所単位で改善できるは範疇ではないため、ホームページ運営の関係部署に提言していく。 「大東文化大学人文科学研究所規程」を、「人文科学研究所所報」および研究班募集要項に掲載し、周知をより徹底する。加えて、年度初めに研究班各代表に、本研究所の理念・目的の理解程度を検証するアンケートを実施し、周知方法の有効性を検証できるようにする。
1-3	年度初めに研究班各代表に実施する理念・目的の周知方法の有効性に関するアンケートの項目に、理念・目的の適切性に関する項目を挙げることにより定期的に検証できるようにする。

本項目の根拠資料（データ類、裏付けとなる資料）

「大東文化大学人文科学研究所規程」、「人文科学研究所業務運営に関する確認・合意事項」、「人文科学研究所所報」、研究部会議事

録、運営委員会議事録、改善方策経過報告書

《指標データ》

なし

Ⅲ【達成目標】目標の進捗状況は、「S：完全に達成」　「A：概ね達成」　「B：やや不十分」　「C：不十分」　で、評価する。

達成目標		目標達成の指標となるもの		評価				
				2014	2015	2016	2017	2018
中期目標(2014～2018)	1-1 研究部会や研究員による座談会等を通じて、研究班のさらなる活性化を進めつつ、研究所の個性化、独自性、国際化についても、理念形成に生か繋げられるように、適時取り上げて長期的に意見交換を行う。	研究部会等の議事録等における経年変化。	→					
	1-2 理念・目的の周知方法の有効性及び適切性を定期的に検証するためのアンケート内容を協議し、実施する。	研究部会等の議事録、アンケート集計結果。	→					
14 年度目標	1-1 研究班のさらなる活性化について、適時、研究部会、座談会等における意見交換を行う。	14 年度の研究部会等の議事録。	→	A				
	1-2 理念・目的に関して、周知方法の有効性及び適切性を定期的に検証するために、研究代表者を対象としたアンケート内容を協議する。	14 年度の研究部会等の議事録。	→	A				